

薬連ハイライク

次期日本薬剤師会 会長候補・副会長候補決まる！

去る3月11日（日）第90回日本薬剤師会臨時総会において会長・副会長の任期満了に伴い、選挙が行われた。会長候補は山本信夫現会長のみが立候補し、議長が日薬会長第14条選挙規程に基づき信任採決（起立方式）を行った結果、賛成多数で山本信夫現会長（3期目）が選任された。当選後の挨拶で「医



薬品医療機器法の見直しや薬剤師の需給問題、消費税問題、診療報酬改定など、様々な課題に取り組んでいく。」と決意表明した。

続いて副会長候補の選挙が行われた。定数5人以内に5人立候補し、信任投票を行った結果（過半数の得票が必要）乾英夫氏、川上純一氏（新人）、森昌平氏、安部好弘氏（新人）、田尻泰弘氏の立候補者全員が当選した。当選後一人ひとりが挨拶し「これから2年間薬剤師の為、会長を支えて頑張ります。」等決意表明をした。

もとゆき便り

調剤報酬の改定

自由民主党組織運動本部本部長代理
参議院議員・薬剤師
藤井もとゆき

平成30年度予算案は衆議院を通過し、参議院予算委員会で審議されていますが、森友学園への国有地売却に係わる文書の改ざん疑惑や働き方改革関連法案に関する厚生労働省の調査データの不備などを巡り、野党の厳しい追求が続いており、国会日程にも影響しかねない状況となっています。

さて、4月の診療報酬改定に向けて、改定項目等の具体的な検討を行っていた中医協は2月7日、その内容を厚生労働大臣に答申しました。

調剤報酬については、かかりつけ薬剤師の必要性や患者の要望等を確認することを要件に加え、「かかりつけ薬剤師指導料、及びかかりつけ薬剤師包括管理料」を引き上げるとしています。また、地域包括ケアシステムにおいて地域医療に貢献する薬局に対し、夜間・休日対応や医療機関への服薬情報提供などの地域医療への一定の実績を有し、その体制を整備している薬局を評価する「地域支援体制加算」を新設し、これまでの「基準調剤加算」は廃止するとしています。更に、薬剤総合評価調整管理料を算

定する医療機関と連携して、多剤処方されている患者の減薬を行った場合に算定できる「服用薬剤調整支援料」を新設するとしています。その他、「薬剤服用歴管理指導料」や「重複投薬・相互作用等防止加算」の評価の充実、「無菌製剤処理加算」の見直しなど、薬局における対人業務や在宅業務などの地域医療への貢献をより高く評価するものとなっています。

他方、いわゆる大型の門前薬局について、特定の医療機関からの処方箋割合の基準を95から85%超にし、同一グループの保険薬局による処方箋受付回数が40万回を超える場合の点数引き下げ、及びいわゆる同一敷地内薬局の調剤基本料の引き下げなど、「患者のための薬局ビジョン」実現に向けて、すべての薬局が「かかりつけ薬剤師、薬局」としての機能を発揮していくことへの大きな期待を示すとともに、病院敷地内への保険薬局の設置や誘致の動きに一石を投じるものとなりました。

藤井議員に関するご意見・ご要望等がございましたら、全国藤井もとゆき薬剤師後援会（下記アドレス）までご連絡くださいますようお願いいたします。

zenkoku@m Fujii.jp